

リーディングDXスクール事業【実践事例】

松野町立松野東小学校(愛媛県)

【取組内容①】 GoogleMeetを活用したオンライン交流学習

＜本校の実態＞

- ・ 全校30名の小規模校
- ・ 各学年2～6名の少人数学級
- ・ 多様な意見に触れる機会が少ない。
- ・ 町内2小学校が中学校では1つになる。



＜実践方法＞

- 学校間の移動にかかる距離と時間を短縮するため、オンライン学習を実施する。
- 両行の同学年を登録したGoogle classroomを作成し、これをポータルとする。
- Googleアカウントを使用し、担任・児童が1人1台端末でGoogle classroomにログインする。
- より多様な意見を必要とする「道徳科」を中心に交流を図る。

＜実践内容＞

- ・ GoogleMeetを活用し、担任同士が事前に打ち合わせを行う。
- ・ どちらか一方の担任が主となり授業を進める。
- ・ ワークシートは紙を活用する。学年に応じてJamboardを活用する。



＜児童の端末画面＞



＜教室提示画面＞

＜実践を通して＞

- 回数を重ねることでオンライン学習に児童のみならず、教員も慣れが見られるようになった。高速回線のおかげで画像や音声の遅延がなく違和感のない学習が展開できた。
- すべての学級で実践を行うことで、道徳科における多様な意見に触れる機会が増加した。児童も相手校の意見を真剣に聞くとともに、発言回数が増えた。
- 端末内蔵のマイク・スピーカーを活用するとハウリングを起こすため、マイク内蔵イヤホンを見学児童に使用させた。これによりハウリングを起こすことはなくなった。
- Google classroomをポータルとして、MeetやJamboardなどのアプリと連動させることで発達段階に応じた情報活用能力の育成を図ることができた。
- マイク内蔵イヤホンを活用する場合、児童がマイクのON/OFFを切り替える必要があり、低学年は操作を忘れることもあった。